

## 「失敗は成功のもと」

古い時代の書物に、よくあるのは、その時の指導者や権力者のことを非常に称賛して書いている、ということです。日本の歴史書にも、そういう嫌いがある、古い時代の書物であれば、あるほど、そこに書いてある内容を鵜呑みにはできない場合があります。と言うのも、そもそも、今のよう一般人でさえ SNS などのインターネットサービスで情報発信をするなんてことは、もちろん古代世界にはあり得なかったわけで、古代における情報発信、つまり、「本を書く」「文字にして残す」という事は、指導者や権力者しかできなかったことでした。指導者や権力者が、自らの意向で歴史を記し、本を書く。正確には、有能な誰かに書かせる、ということしたわけですが、そうすると当然、自分のことを貶めて書いたり、都合の悪いことをそのまま書いたりはしません。結果、非常に見栄えの良い英雄譚として後世に残されていくわけです。

その点、聖書は違います。もちろん、聖書にも鵜呑みできないことはたくさん書かれていますが、聖書の素晴らしい特徴は、指導者も権力者も、王様も英雄も、みんな間違いを犯し、失敗している、ということを含み隠さず書いてあるところです。聖書は、「聖なる書物」であるとして、なんだか有り難いこと、美しいことが沢山書かれているように思えて、その実、中身は偽ることのできない人間の本性を暴いています。強欲になる人間、嘘をついてしまう人間、他者を許せない人間、約束を守れない人間。そうした、ある意味でありのままの人間の姿を聖書は伝えています。聖書は、過去の栄光を自慢げに語る未熟な書物ではなく、自らの失敗や過ちを後世のために語り残した成熟した書物である、と私は考えています。

神学という学問が、その名前に反して、神様について学ぶものではないのと同様に、聖書を読む

という行いも、神様のことを知る、という目的に限りません。聖書を読んで、そこに登場する格好良くない人たちに共感し、自分を重ねることで得られる赦しや慰めがあります。神様のことを信じたいと思いつつ、なかなか信じ切ることができなくて苦しんだ人たち。神様の御心に従って生きようと決意しながら、その通りには生きられなかった人たち。私たちは、聖書を読んで、素晴らしい信仰を身に着けるといよりも、かつての信仰者たちの失敗を知って、自分の反省とする、ということが大事なのだと思います。聖書には、神様と共に歩んだ多くの人たちの、多くの失敗と、赦しと、その赦しから得られた喜びや賛美が沢山書かれています。聖書を読んで「こんな信仰者になりたい！」と願っても、もちろん良いですが、むしろ聖書を読んで、「そっか、昔の人も私みたいな失敗をしたんだな」と。「でも、赦されて生きていたんだな」と。そんな読み方もあって良いと思います。

今回取り上げたエレミヤ書は、聖書の数ある失敗談的書物の中でも、その色合いが強いものです。新バビロニアという大きな国に攻め込まれ、破壊されたイスラエルと、その首都であるエルサレムが、エレミヤ書の舞台です。荒廃した街の真ん中に立って神様の御言葉を取り次いでいる預言者エレミヤの姿が語られています。しかも、エレミヤに与えられる神様の御言葉と言うのが、とても厳しくて、今、自分たちが見舞われている、この大きな不幸は、全部自分たちのせいだと言われました。国家規模の大惨事の、その原因は、国民一人一人が正しい行いをしなかったことが原因である、と神様に言われてしまって、そして、エレミヤは、その神様の御言葉を国民に伝えて回るといふ預言者の役割を背負っていました。今日の聖書箇所 11 節が、ちょうど預言者エレミヤの役割と、エレミヤの伝えるべき内容となっています。「知恵ある人はこれを悟れ。主の口が語られることを告げよ。何故、この地は滅びたのか。焼き払われて荒れ野となり、通り過ぎる人もいない」。この神様から預かった御言葉は、新バビロニアによる破壊と蹂躪のことを示しています。「何故、そん

なことが起こったのか、よく考えてみなさい」という、イスラエルの民一人一人に反省を促すものです。

この預言を聴く現代の私たちが、いくら反省を促されても、新バビロニアによる破壊と蹂躪には心当たりはありません。だから、今日の聖書箇所のお言葉を、文字通りに受け止めて、今から 2500 年前の出来事を考えてみても、あまり実りはないと思います。今を生きる私たちは、今の問題を考えないといけません。新バビロニアによる戦争に際して、「わたしは何もしてないのに」と感じた当時の人たちは多くいたと思います。「何故、関係のない私が、こんな目に遭わないといけないのか」と。その多く一般の人たちの感じたことは、多分、私たちが今の時事問題に対して感じていることと似ていると思います。日々、ひた向きに生き、奉仕に専念し、善き行いに努めて、何ら後ろ指を差されたり、責められたりする謂れはない、そんな私たちです。この世に起こる不幸な出来事は、全部、私とは関係のところに原因があって、私たちは、そんな関係のないところの不始末によって迷惑を被っているに過ぎない、と。そんな風に思うこともあります。私にしても、大きな大学を持つ学校法人が不正を行うことで、全然関係ない敦賀教会幼稚園への規制が強化されることに不条理を憶えて、イライラを感じます。バスの安全装置の設置義務もそうですし、教会に関しても、カルトを巡る議論の中で、とぼっちを受けないかと心配している部分があります。宗教法人は非課税だという単純な理屈だけが独り歩きをして、宗教法人でも収益事業を行えば、ちゃんと納税義務が生じることや、宗教は、本来行政が行うべき国民の精神的ケアや見守り等の福祉活動を代行する存在として一部の税負担が免除されていることなど、あまり知られていないんだろうなと思います。「自分のところは、ちゃんとしているのに、周りが良くないから、自分まで不幸になる」と思ってしまうことは、今も昔も変わりません。

しかし、重要なのは、「そんな風な不条理を、ただの愚痴に変えているだけ良いのか」ということ

です。「何故、この地は滅びたのか」という、一個人には大きすぎる問い掛けを神様はなさいました。この聖書的事実は、つまり、どんなに大きな問題でも、私たちは、それに関わる当事者の一人として考えることを、きっと、神様から求められているのだと思います。自分が解決できる問題ではなくても、ただの傍観者・傍聴者に過ぎないとしても。「何故なのか」という問いを持つこと。それは、言い換えるなら、神様の造られた、この世界とこの社会に関心を持って、平和の使者として働きかけていくことだと言えます。聖書が伝える、ひとつ大きなメッセージは、私たち一人一人が神様の似姿として、この世界に平和を実現させる担い手である、ということです。隣人愛も、十字架も、すべては、神様の愛されたこの世界を私たちも愛して、神様の国が実現するようにと、与えられた賜物を用いることに繋がっていきます。

聖書は、大昔の人たちの失敗を語り残してくれています。それは、単純に言ってしまえば「神様の御心に背いた失敗」ということですが、しかし、もう少し解釈を加えて、詳しく言い直すなら、「神様の造られた世界に生きていながら、自分には関係ないと思って、為すべきことをしなかった失敗」ではないかと思います。「この地が滅びる」という大きな大問題についても、神様は一人一人に「何故こうなったのか？」と尋ねるのです。今も、もし神様の御声を聴けるとするなら、同じような問い掛けがあるのではと思います。もう、多すぎていちいち列挙は出来ませんが、今の世界を覆うすべての不条理や不幸について、神様は「何故こうなったのか？」と私たちにも問われることでしょう。国際関係とか社会保障とか経済とか、そんな専門知識がなかったとしても、私たちは、神様に命を与えられて、神様の造られた世界に生きる者として、「何故こうなったのか？」という興味関心だけは失わないようにしていきたいと思います。かつて、その興味関心を失って、国を滅ぼされたイスラエルの民に学びつつ、私たちは主の民として、この世界を生きていくのです。

まあ、実際に、具体的にできることは、振起日礼拝でもお伝えしたように、外に出ている平和堂

の買い物カートを戻してあげるとか、迷子に声を掛けるとか、店員さんに優しく接するとか、人権意識を高めるとか、そういう形になるかと思います。決して、ウクライナを救うとか、地球温暖化を止めるとか、そんな大きな問題の解決は、私たちにはできません。でも、できないから無視するのではなく、できることをやる、と言うのが、クリスチャンである我々に求められる姿なんじゃないかと思います。あらゆることを祈り求めることができるからこそ、その捧げた祈りが一日も早く実現するように、自らの行いを整えてゆく。

神様は、こんな小さな私たちのことも用いて、平和とご自分の国の実現を進めておられます。その御業に今日から始まる1週間も携わり、小さな成功を一つ一つ神様にお捧げして参りましょう。お祈りを致します。

神様。

今日も私たちのために尊い安息日をお与えくださり、感謝致します。何の功もない私たちを、あなたは「価高い」と見出してくださり、今日も特別な祝福と恵みをくださいました。あなたは、預言者を通して、あるいは聖書を通して、私たちに問い掛けてくださいます。その問いは、私たちには大き過ぎて答えられないこともあります。しかし、あなたが私たちを認め、信頼してくださるからこそ、問い掛けておられるのだと信じ、私たちも出来得る限りの応答を続けて参りたいと思います。この世界が少しでも平和になりますように。少しでも不幸が減って、喜びと賛美が増し加えられるように。どうか、私たちのことを用いて、私たちを祝福で満たしてください。このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

## 10月召天者を憶える祈り

聖書：ヨハネによる福音書 14 章 1～4 節

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」

小山武雄（こやま たけお）兄 （2004年10月3日召天）

河邊志げ子（かわべ しげこ）姉 （2008年10月4日召天）

山田百合子（やまだ ゆりこ）姉 （2015年10月13日召天）

ニッ矢セイ（ふたつや せい）姉 （1999年10月23日召天）

大澤徳則（おおさわ とくのり）兄 （1990年10月29日召天）

神様。私たちは今、10月にあなたへの御下へと召された兄弟姉妹を憶えて祈りを捧げています。尊敬すべき信仰の先達のことを思う時、私たちの心はこの世を超えて、あなたの住まう天上にまで及びます。御国の幸いのただ中におられる方々は、必ずや主と共に永久の安らぎに身を委ねていると信じます。生前に各々成し遂げられた働きに対する十分な報いが天にあることを信じます。来る日には、私たちもまた天へと帰っていきます。その時、再び相見える昔懐かしいお顔を前にして、恥じることなくこの地上での働きをお伝えすることができるように、どうか私たちの生活と信仰をあなたが導いてください。天には豊かな平安がありますように、そして、地にはあなたによる力強い導きと、くすしき恵みをお与えください。

この祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。